

# 石岡市文化財保存活用地域計画【茨城県】

【計画期間】令和5～14年度（10年間）

【面積】215.53km<sup>2</sup>

【人口】約7.3万人

【関係計画等】

筑波山地域ジオパーク  
（日本ジオパーク、  
H28年9月）

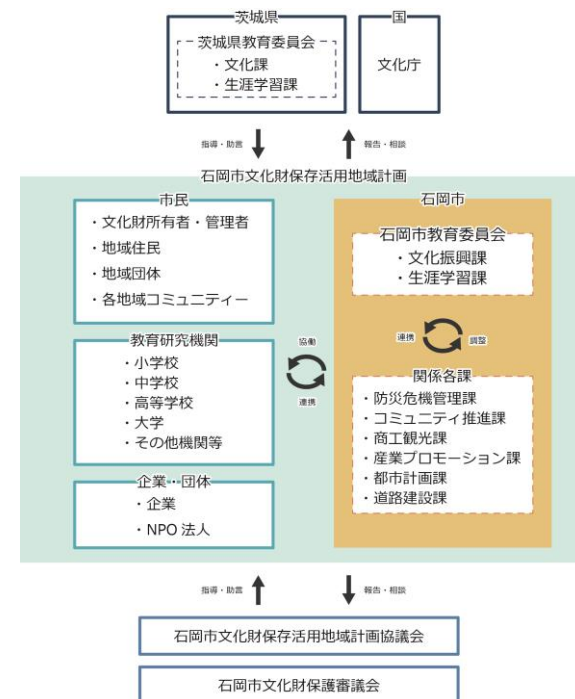


## 指定等文化財件数一覧

種別		国		県		計	
		指定等	登録	指定	指定		
有形文化財	建造物	1	19	2	6	28	
	美術	絵画	0	0	2	5	7
		彫刻	0	0	4	18	22
		工芸品	0	0	7	7	14
	工書	書跡・典籍	0	0	3	4	7
		古文書	0	0	2	3	5
	品	考古資料	1	0	4	8	13
		歴史資料	0	0	1	1	2
	小計		2	19	25	52	98
	無形文化財		0	0	0	0	0
小計		0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	1	6	7	
	無形の民俗文化財	0	0	5	6	11	
	小計	0	0	6	12	18	
記念物	遺跡	6	0	4	10	20	
	名勝地	0	0	0	2	2	
	動物、植物、地質鉱物	0	0	2	5	7	
	小計	6	0	6	17	29	
文化的景観		0	-	-	-	0	
伝統的建造物群		0	-	-	-	0	
文化財の保存技術		0	-	-	-	0	
合計		8	19	37	81	145	

指定等文化財は、145件  
未指定文化財は、7,510件把握

## 推進体制



## 歴史文化の特徴

### 1 常陸の中心

古墳時代には大型の前方後円墳などが、古代には常陸国の国府、国分寺、国分尼寺や郡寺が建立された。中世になると常陸大掾職に任じられた大掾氏が府中を治めるが、戦国末期に佐竹氏により滅ぼされた。このように本市は、古代から中世にかけて常陸国の中心であり、その成立から繁栄、衰退までが凝縮された地域である。

### 3 重なり広がる多様な祭り・信仰

本市には、文化や信仰を背景とした多くの寺社や石造物、まつりや行事が今も各地に残っている。支配層による権威の誇示や政治支配のためだった宗教が、主体が町人等の民衆に変わっていく等、時代とともに変化していく様が建造物やまつり、年中行事に現れ、それらが文化として積み重なり、今なお各地で受け継がれている。

### 2 県下有数の商都

本市は、「府中宿」や「高浜河岸」といった水陸の道が交わることで物と人が集まり、商業活動が活発に行われ、商人の町として発展した地域である。近代になると、力をつけた商人たちは多様な分野でまちづくりをけん引し、その痕跡が市内の各地に残る。また、旧水戸街道を中心に看板建築等の商家建築が多く残る街並みは商業都市としての歴史文化を伝える。

### 4 里山と生きる、水と生きる

本市は、筑波山地、石岡台地、霞ヶ浦とそこに注ぎ込む恋瀬川・園部川と多様な地理的環境を有している。球状花崗岩に代表される石資源、姫春蟬の生息地等の豊かな自然が存在し、棚田や茅葺き民家等日本の原風景を残しているのも特徴の一つである。このように本市は、多様な地理環境に支えられ、その環境と共生してきた様々な文化が凝縮された地域となっている。

「悠久の歴史文化を共に守り、伝え、輝くまち いしおか」

石岡の歴史文化を守り、 価値を高め、未来に受け継ぐ	<p>1.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・把握できていない文化財がある</li> <li>・文化財の内容が十分明らかにできていない</li> <li>・石岡市の歴史文化の特徴を探究するための総合的な調査が不足している</li> <li>・把握・整理できていない資料がある</li> <li>・収蔵しきれない資料がある</li> <li>・市内の文化財や収蔵資料の保存・管理が不十分である</li> <li>・保存活用計画が未策定の史跡がある</li> <li>・石岡の優れた景観を伝えきれていない</li> <li>・魅力や価値を十分に伝えきれていない文化財がある</li> <li>・中心となる規模の展示施設がない</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
石岡の歴史文化を活かし、 魅力あふれた地域づくり	<p>2.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵資料の公開等の情報発信を更に進め、価値の共有化を図る必要がある</li> <li>・優れた歴史文化があるがブランド力が弱い</li> <li>・ボランティアガイドの高齢化等により、観光客への対応が不十分</li> <li>・整備されていない史跡が多くある</li> <li>・文化財の案内板や説明板の老朽化が進んでいる</li> <li>・利用されていない歴史的建造物がある</li> <li>・周辺環境と整合していない看板や建物がある</li> <li>・交流人口増加に向けた広域連携の取組が不十分</li> </ul>
石岡の歴史文化の保存・ 活用を支える仕組みづくり	<p>3.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育や生涯学習との連携を強化する必要がある</li> <li>・文化財を保護する心を育てる必要がある</li> <li>・文化財所有者や管理者等の負担が大きく、後継者も不足している</li> <li>・民間団体等との連携が不十分</li> <li>・文化財を保存・活用するための資金が不足している</li> <li>・専門職員が少なく、専門分野や年齢構成にも偏りがある</li> <li>・庁内や関係者間の情報共有や連携が不十分</li> </ul>

<p>1-(1) 文化財の把握・収集</p> <p>把握調査が不足している分野の調査を実施し、体系的なデータベースを構築する。</p>
<p>1-(2) 保護の推進</p> <p>収集した資料・情報等は自然災害対策等にも活用し、災害に備える。</p>
<p>1-(3) 現有資産の磨き上げ</p> <p>歴史的景観や里山景観、地域独自の歴史文化の調査を進める。</p>
<p>1-(4) 展示・公開活動の展開</p> <p>歴史文化施設等の再配置や改修等を進め、中心となる規模の展示施設の整備を行う。</p>
<p>2-(1) 情報発信・価値の共有化</p> <p>歴史文化の価値及び魅力を伝えるため、文化財や収蔵資料の公開を推進する。</p>
<p>2-(2) 「もてなし」の強化</p> <p>歴史文化について案内活動を実施するボランティアガイドの育成、支援を行う。</p>
<p>2-(3) 文化財の整備と活用</p> <p>最新技術を利用した史跡の整備を検討すると共に、ユニークペニユーを含む、文化財の整備・活用を進める。</p>
<p>2-(4) 広域連携・活用の推進</p> <p>広域連携による来訪者増加を目指す。</p>
<p>3-(1) 文化財の担い手づくり</p> <p>担い手づくりとして学校教育や生涯学習で、歴史文化に興味関心を持てる取組の実施、充実に取り組んでいく。</p>
<p>3-(2) 活動の基盤強化</p> <p>文化財の所有者や管理者、保存・活用を行っている団体に対し、活動への支援を行うとともに、新たな支援策の検討も進める。</p>
<p>3-(3) 組織・体制の強化</p> <p>文化行政を担う適正な体制づくりを構築する。また、庁内や関係者間で情報共有・連携する場の設置を進める。</p>

<p>②-2 ★鹿の子遺跡・漆紙文書の整理・調査</p> <p>鹿の子遺跡出土の漆紙文書について、整理・調査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ R5～R14</li> <li>■ 行政、市民、企業・団体、教育研究機関</li> </ul>
<p>⑦-1 ★常設展示施設の拡充</p> <p>ふるさと歴史館・常陸風土記の丘等の再配置を進め、常設展示施設の拡充を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ R5～R14</li> <li>■ 行政、企業・団体、教育研究機関、市民</li> </ul>
<p>⑪-1 ★歴史的建造物の活用</p> <p>歴史的建造物の保存を図り、見学や使用が可能な施設として活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ R5～R14</li> <li>■ 市民、行政、企業・団体、教育研究機関</li> </ul>
<p>⑪-2 ★住民参加型まちづくりファンド 支援事業</p> <p>歴史的建造物の修理及び非歴史的建造物の歴史的建造物と調和した修景へ補助を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ R5～R14</li> <li>■ 市民、行政、企業・団体、教育研究機関</li> </ul>
<p>⑬-1 ★ふるさと学習の充実</p> <p>小中学校において地域の歴史文化について学ぶふるさと学習の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ R5～R14</li> <li>■ 行政、市民、企業・団体、教育研究機関</li> </ul>
<p>⑮-8 ★無形の民俗文化財の映像記録 (後継者育成編)の作成</p> <p>無形の民俗文化財の後継者育成用の映像記録を計画的に作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ R5～R14</li> <li>■ 行政、企業・団体、市民、教育研究機関</li> </ul>

# 関連文化財群と文化財保存活用区域

## 関連文化財群

### ① 古代常陸国の成立と繁栄

古墳時代から奈良・平安時代にかけて常陸国が成立し、その拠点地域として繁栄していく過程を物語る関連文化財群である。

本市では、舟塚山古墳等の古墳、常陸国府跡、常陸国分寺跡のほかに国府に関連する遺跡が所在している。



### ② 中世の動乱

鎌倉時代から安土・桃山時代にかけて、佐竹氏や大塚氏といった多くの氏族の盛衰を物語る関連文化財群である。本市では、府中城の土塁、善光寺の楼門が所在しているほか、戦乱のさなかに生まれたものであると考えられる排禍ばやし等の民俗芸能がある。



### ③ 水戸街道と高浜河岸が育てた府中宿

近代には県下一の商都とまで称されることになる商人の町・石岡の根幹を物語る関連文化財群である。水戸街道と高浜河岸により周辺地域から人や物資が府中宿へと入るようになった。これにより醸造業や穀物商を中心とした商業が発展し、商人の町という府中宿の個性が作られた。



### ④ 商都を伝えるレトロな街並み

商都として発展した歴史的背景や災害史、日本独自の店舗建築等、近世から近代にかけての石岡の特徴を物語る関連文化財群である。現代まで残る石岡ならではのものは、旧水戸街道を中心に看板建築等のレトロな商家建築が多く残る街並みが挙げられる。



### ⑤ 筑波山地と常陸国府が作り出した信仰空間

石岡ならではの筑波山地と常陸国府という二つの要因が作り上げ展開していく信仰文化を物語る関連文化財群である。筑波山地は霊山として信仰を集める山々で形成されており、西光院等がある。常陸国府には常陸の中心として茨城廃寺等が所在している。



### ⑥ 獅子・山車・ささらの祭り

町の発展と交流の歴史、それを受け継いでいる人々の想いを物語る関連文化財群である。常陸国総社宮例大祭では30台以上の幌獅子、10台以上の山車が巡行する。柿岡の祇園祭りでは、石岡地区では途絶えた「屋台」が柿岡のからくり人形として現在まで伝わっている。



### ⑦ 茅葺き民家と里山景観

温暖な気候下、人々の生業や暮らし綿々と続いていく中で、筑波流で葺かれた茅葺き屋根の見事さはもとより、それを支えてきた資源のよりどころである里山と一体となつてつくり出された里山景観を物語る関連文化財群である。



### ⑧ 地域を育む水、恋瀬川

地域の自然景観や遺跡群、産業や文化に至るまでの大きな礎となり、今日の本市の産業や文化、風土までもを一筋の大河として支え続けている関連文化財群である。恋瀬川は、動植物相を育んだり、舟運により人・物の輸送を発達させたりしたほか、地域の文化にも影響を与えてきた。



## 文化財保存活用区域

### B 恋瀬川源流域の里山景観保存活用区域



### A 常陸国府・府中宿保存活用区域

### A 常陸国府・府中宿保存活用区域

古代には常陸国府が、中世には府中城が置かれ、近世以降は府中宿として繁栄し、現代にいたるまで本市の中心的な拠点が置かれた区域である。また、常陸国総社宮例大祭等の主要行事が開催され、お祭りの保存会が活発に活動し、伝承活動を行っているほか、石岡市立ふるさと歴史館といった関連施設もあり、文化財の保存・活用を図る条件がそろった区域となっている。



### B 恋瀬川源流域の里山景観保存活用区域

恋瀬川やその支流による舟運で結びついていた区域である。八郷地域のなかでも、茅葺き建物等の文化財が集中し、大増のイグネや棚田等の里山景観も特に良好に残る。筑波大学や地域住民によるNPO法人が、区域内の茅葺き民家を拠点に活動をしている。



# 石岡市文化財保存活用地域計画【茨城県】



市内には404か所もの埋蔵文化財包蔵地が存在し、有史以前からの人々の営みが見られる。弥生時代後期には他地域からの移住者によって、鉄器や青銅器、水田耕作がもたらされ、「農耕社会」へと進化を遂げたと考えられる。

「農耕社会」の発展は、「クニ」やそれを支配する首長の登場へとつながる。恋瀬川上流域の柿岡地区には、県内最古級の古墳である丸山古墳をはじめとした、4世紀代の古墳が集中する県内屈指の地域となっている。5世紀になると、恋瀬川下流域の城南地区に舟塚山古墳が築造される。墳丘長186mで東日本第2位の規模を誇る大型前方後円墳で、被葬者は霞ヶ浦一帯を支配した大首長と考えられる。7世紀になると、律令制国家の形成過程の中で前方後円墳の築造は終焉を迎え、鹿の子大塚山古墳のような円墳や、横穴式石室を持つ岩谷古墳、兜塚古墳、方墳の可能性ある茨城古墳等が築造される。そして、「国・郡・郷(里)」が設けられる。中でも本市には国の役所(国府)が置かれ、常陸国府跡、常陸国分寺跡、常陸国分尼寺跡が確認されている。

そのほかにも国府に関連する遺跡が確認されていて、有明地区の瓦塚窯跡は国府や国分寺等に瓦を供給した全国最大級の窯跡で、府中地区の鹿の子遺跡は武器を中心とした鉄製品を生産する国府付属の官営工房と考えられている。

## ■ 関連文化財群の保存・活用の課題の例

整備されていない史跡が多く、見学者用の便益施設の設置も不十分で、活用や情報発信等が十分に進んでいない。

## ■ 関連文化財群の保存・活用の方針の例

史跡の保存活用計画の策定や公有地化を進めるとともに、周遊コースの整備やそれに伴う便益施設の効果的な配置、ユニークベニューを含めた活用、ボランティアガイドとの連携を進める。

## ■ 措置の例

### ⑩-3-1 公有地化した史跡の整備・活用

公有地化した史跡(舟塚山古墳・常陸国分寺跡・瓦塚窯跡等)の整備や活用を行う。

- R5~R14
- 行政、市民、企業・団体、教育研究機関

### ⑩-4-1 周遊コースの整備と連動した観光プランの拡充

構成文化財の周遊コースを整備し、それと連動した観光プランを設定・拡充する。

- R5~R14
- 行政、企業・団体、市民、教育研究機関

### ⑩-1-1 文化財説明板の整備

構成文化財の所在地に説明板や案内板を整備する。

- R5~R14
- 行政、市民、企業・団体、教育研究機関

### ⑩-6-1 文化財を活用したユニークベニューの推進

常陸国分尼寺跡や舟塚山古墳のユニークベニューとしての活用の検討・推進や、情報提供を行う。

- R5~R14
- 行政、市民、企業・団体、教育研究機関

## ■ 構成文化財分布図



舟塚山古墳



常陸国分尼寺跡